

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	せきのついせき							
書 名	関津遺跡 I							
シリーズ名	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	34-2							
編著者名	大崎哲人 小島孝修							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課				財団法人滋賀県文化財保護協会			
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号				滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番2号			
発行年月	平成19年(2007年)3月							
所収遺跡	所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せきのついせき 関津遺跡	しがけん 滋賀県 おおつし 大津市 せきつごらうめ 関津五丁目	25201	316	34° 55' 55"	135° 55' 19"	8,909m <sup>2</sup>	20030407 } 20040126	県営ほ場整備事業 (経営体育成基盤 整備事業)田上関 津地区工事
所収遺跡名	種 類	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
関津遺跡	集落跡 官衙跡	縄文時代  飛鳥時代  奈良時代  平安時代から鎌倉 時代  室町時代		落ち込み・墓  竪穴住居・掘立柱 建物・溝  掘立柱建物・溝  掘立柱建物・井 戸・墓・溝  掘立柱建物・土坑		有舌尖頭器・磨石 縄文土器  土師器・須恵器  土師器・須恵器・和 同開珎・神功開 寶・人形代 土師器・須恵器・瓦 器・輸入陶磁器・ 宋銭・木簡・鉄滓  陶器・石臼		7世紀中頃の墨書 土器が出土
要 約	<p>縄文時代から近世に至るまでの遺物が出土し、主には飛鳥時代、奈良時代、平安時代末から鎌倉時代、そして室町時代末頃の4時期に大別できる遺構を検出した。出土した遺物では縄文時代草創期の有舌尖頭器が最も古く田上平野における新たな石器資料となった。飛鳥時代の墨書土器は律令国家体制成立期の墨書土器としては初現期段階のもので、飛鳥地方との結びつきや軸としての田上山の開発、古代製鉄遺跡との関わりなどから注目すべきものである。平安時代末から鎌倉時代にかけての建物群などの遺構の在り方からは、この地域における地割施行を伴う農地開発の動向がうかがえる。また食膳具に大和型瓦器を主体とする当該期の土器の様相には、南山城地域や大和地域の影響を受けた地域色を見ることができる。</p>							